

風待ち湾 高級な 俵物産地 隠岐西郷

島根県

島根半島の北東四十四キロメートルの海上にある隠岐の島。島前と島後二つの島からなり、近世末までは山陰道八ヶ国の一つ「隠岐ノ国」と呼ばれてきた。

平安鎌倉の時代、ここは流人の島でもあり、後鳥羽上皇や後醍醐天皇が流されたことでも知られる。後醍醐天皇は後に島を脱出、やがて建

武の中興を成し遂げたことで名高い。

江戸時代になると、西廻り航路の風待ち湾として多くの北前船の入港を呼んだ。

隠岐の俵物「干しアワビ・干しなまこ」は高級品として珍重され、北前船船頭たちが競って買い集め、下関から長崎経由で李王朝時代の韓国や清国へ輸出された。かの国では宮廷料理の食材としてあつかわれた。

西郷の港から西町の天神橋へと続く道の両側には海運がもたらした商いと暮らしの文化が今なお島の魅力として残っている。

石州赤瓦が間違いなく北前船で運ばれた証のような西郷の町並み。ぜひ多くの人にもみていただきたい。



【宇屋地区にある御碕神社】
だんじり舞の伝承されている宇屋地区は、昔は北前船の寄港地として賑わった。



北前船の風待ち港として繁栄し、江戸時代の歴史的な町並み残す

